令和6年度　学校評価表 【自己評価】

三次市立甲奴小学校

経営理念（ミッション・ビジョン）

・甲奴中学校区コミュニティ・スクールとして小中一貫教育を推進し，保護者・地域とともに将来を担う児童を育成する。
・変化の激しい社会の中で，グローバルな視点をもち，国籍や互いの立場の違いを超えて，協調し協働して生きていくことができる力をつける

＜学校教育目標＞
「文武両道」
すすんで　　きたえ　みがき　　のびる
～社会の変化に対応できる，心豊かでたくましい子どもの育成～
＜めざす学校像＞
〇すすんで　・・・・・・・・・・・・・・・・子供の主体性を伸ばす学校
〇きたえ・みがき・・・・・・・・・・・個々の持ち味を発揮させる学校

＜甲奴中学校区のめざす子供像＞
「ふるさと甲奴を誇りに思い，自らの未来を切り拓いていく子供」
＜甲奴小のめざす子供像＞
何事にも全力を尽くし「文武両道」をめざす子供
☆自分が好き・・・夢（目標とする姿）を持ち自ら進んで最後までねばり強くやりぬく子供
☆友だちが好き・・・友だちのよさを見つけ，自ら進んで一緒に働き，遊び，学ぶ子供

評価計画						自己評価								学校関係者評価	
	中期経営目標	短期経営目標	目標達成のための方策	指標 （効果を見とる目安）【担当】	目標値	7月 達成値	7月 達成度	7月 評価	12月 達成値	12月 達成度	12月 評価	結果の分析	改善策	評価	コメント
確かな学力の育成	「コミュニケーション能力」・「課題を発見し解決する力」・「乗り越える力」を育てる	全国水準の学力をつける（知識・技能，思考力・判断力・表現力，学びに向かう力の育成）	・相互に授業参観し，児童が主体的に学び合う授業作りを行う ・パワーアップタイム（補充学習）を活用し，基礎・基本の授業改善を行う	・指導者が互いに授業を見合い，児童が主体的に学習に取り組む授業の充実度 【 高石 】	80%	90.4%	113%	A				・算数科を中心とした学習リーダーが浸透してきており，児童自ら主体的に学ぼうという意欲や雰囲気がどの学年にも見られ，指導者の相互評価も9割以上という高い結果となった。また，全学年の相互評価が行えていないため，今後もより一層学習リーダーを中心とした授業作りを進めていくしかし，児童に対しては具体的な支援が必要である場面も見られる。意欲はあるが上手くいかない事に戸惑っている児童も見受けられるため，校内研修で学習リーダーの実態交流や子連れ参観を今後も行っていく。 ・国，算の評価テストについては，目標値の70%を下回る結果となった。学年差がかなりあり一定程度の基礎学力が十分身についているとは言い難い実態である。また，全学年国語科より算数科の方が低い割合となっている。特に個人差がつく数科であり，児童によっては5割程度の児童もいるため個別指導がかなり必要であり，課題がある。 ・計画的にパワーアップタイムの取り組みを進めた結果，指導者評価の実施度は，ほぼ100%となった。学期途中に指導者同士で進捗状況を交流し合ったり，実施日数の確認や実施日を変更したりしたことも大きい要因と考えられる。しかし，児童が自己目標を達成できたかどうかについては，62%と目標値をかなり下回る結果となった。中間報告時（2学期当初）にも児童の自己目標の在り方について周知をしたが，確実に実施してもらえなかったことが原因である。	・学年実態及び児童実態に応じた学習リーダーを育成する取り組みを進める。また，児童が形式的であっても授業を進める事がある程度主体性の向上につながると考えて，算数科以外にも他教科へリーダー学習を広げていく。また、子連れ参観などを計画的に行い，児童主体の授業改善を図っていく。 ・評価テストについては，かなり学年差があるため，今後も個別指導及び児童実態に合った授業改善を図っていく。また，全国学テの分析で明らかになった課題は，全校で共通して取り組む事柄の共通認識を図り，確実に行う。 ・今後も計算力や漢字の書き取りの力などをより確実に身に付けさせるため，パワーアップタイムを計画的に実施していく。実施にあたっては，		
				・評価テスト（国語・算数）で，どちらも得点が80点を超える児童の割合 【 八幡 】	国70% 算70%	国69% 算65%	99% 93%	B B							
			・パワーアップタイムでの個人目標を達成した児童の割合。（児童自己評価）		80%	62%	78%	c							
			・パワーアップタイムの実施度（指導者自己評価） 【 土井佳恵 】		80%	98%	123%	A							
		〇対話のある授業づくりによる思考力・判断力・表現力の育成	・ファイナルタスクを意識した授業づくり及び授業実践を行う ・児童間の対話による深まりを意識した授業づくり及び授業実践を行う	・課題発見，解決学習の展開で，ファイナルタスクを明確にした授業の充実度。（指導者同士の授業評価シートによる）	80%	87.3%	109%	A				・単元ゴールを明確にしたの単元及び教材研究に取り組み，授業改善を図っていた成果が表れ，指導者による相互評価は8割以上の肯定的な評価という結果になった。児童にめざす姿や力を明確にし，共通認識を持たせて授業を行った成果だと考える。さらに，本校での相互評価の方が低い学年が見られるが，これは指導者自身が，ファイナルタスクを意識した授業とはどのようなものか認識が高まったため，厳しく評価できるようになった結果である。また，授業後の研修で，自分ならどのような改善策を行うかといった視点での協議ができてきたのも成果である。 ・児童が多様に関わり合い対話のある授業の充実度については，目標値を下回る結果となった。話す事や聞く事が十分身についてなく，対話をする事に苦っていない学年がいくつかあるのが要因である。今後は，対話にはどの様なモデルがあるのかを児童に示したり，何でも話せる学級づくりにも力を入れていく必要がある。	・児童の興味関心を引いたり，生活と関係した教材開発に努め，体育科の授業にもファイナルタスクを明確にした授業を学期1回以上は実践する。 ・対話のモデルについての研修を深めるとともに，児童にも多様な対話の仕方を示していく。また，話しやすい学級にしていくために，授業での間違いや誤答を大切にした実践を積み重ねていく。		
				・児童間の対話による深まりを意識した授業づくり及び授業実践を行う	80%	78.8%	98.5%	A							
		〇学びに向かう力の育成	・児童の知的好奇心を喚起する学習課題を設定する ・子どもたちの学び合いを行うための手立てを工夫し実践する	・前年度より体育科が好きと言える児童の割合。 （体育科授業に関わる児童アンケート） 【 岡野 】	90%	100%	111%	A				・全児童が，体育科に対して肯定的な意識をもつことができている。昨年度と比較して，また，研究授業等で授業改善を図った領域については，昨年度と比較してもかなりの伸びが見られた。次年度に向けて，各領域の特性や身に付けるべき技能についての研究を深め，全領域で数値が上向くようにしていく。 ・次年度に向けて体育科の授業改善に向けて，「甲奴スタンダード」のモデルを示し，深い学びや場はどの様なものかについての研究，協議を深めたことが目標達成につながった。しかし，低・中学年が目標値8割を少し下回っているのは，研究授業の成果が，まだ授業改善に活かしきれてないと考える。さらに，ICT機器の活用は毎時間という事ではなく，有効な場や機会を検証していく必要がある。	・今後も学期に1回アンケートを実施する。また，次年度と比較検証できるように，アンケート結果を残しておく。また，児童の知的好奇心を喚起する様に，導入やファイナルタスクにさらなる工夫を加えた授業を行う。 ・「甲奴スタンダード」の授業スタイルを意識した授業改善を図るとともに，効果的なICT機器の活用場面を考えた授業改善をめざす。また，指導者相互の授業観察を定期的に行い，互いの指導力を高め合う。		
				・深い学びが行えるよう場や教材，ICT機器の活用等の工夫した授業の充実度（指導者同士の授業評価シートによる）【 高石 】	80%	80.8%	101%	A							
豊かな心の育成		規範意識を高め，思いやりの心を育成する	・一斉下校，朝会時等における全体指導 ・挨拶は，「じぶんから・だれにでも・いつでも」「先言後礼」を徹底する ・「挨拶運動」や「掃除の仕方朝会」等，児童会で主体的に取組ませ，自治能力を高める	・「あいさつ（先言後礼）・返事・整理整頓・無言掃除・無言集合・無言移動」に関する生活アンケートで肯定的に自己評価する児童の割合	80%	92%	115%	A				・挨拶，返事，整理整頓等，1学期から意識して取り組む児童が多く見られ，児童自身が進んで取り組んでいる。 児童は肯定的評価しているが，「3つの無言」に関する項目で，否定的評価をしている児童も見られた。	・3つの無言を意識させるため，各担当場所で教員が評価できるようにポイントに立つ。 ・返事の意識が低い児童も多い。朝会等で名前を呼ばれたら，相手に届く声で返事ができるように職員も返事をする。 ・良い挨拶，良い返事ができている児童を評価する。		
				・教職員の見取り調査の割合 【 中島 】	70%	76%	109%	A				・教師の見取りとしては，目標値を達成している。各学級での指導や全校集会の場での指導が繰り返しされているためと考えられる。しかし，児童の自己評価と比べると差が少し見られる。			
		〇思いやりの心の育成	・ふわふわ言葉の常態化をめざす生活指導 ・にこにこボックスの活用の充実 ・道徳の時間の充実	・「思いやりの心」に関する生活アンケートで肯定的に評価する児童の割合【 力石 】	80%	96%	120%	A				・児童の肯定的評価が高く，相手に対して思いやりのある行動を意識して生活することができている。にこにこボックスの活用にも，全学年取り組み，友達の良い所を見つけることが増えている。 ・指導者の見取り，保護者アンケートの結果を見ても，肯定的に評価している。	・引き続き，にこにこボックスを活用したり，児童の良い所を全校や学級で紹介したりすることを行っていく。 ・道徳の時間を活用し，思いやりの心を育成していく。 ・相手を思いやる言葉遣いを常態化するために，学級での指導を引き続き行うとともに，全職員が取り組んでいく。		
				・「思いやりの心」育成に関する教職員の見取り調査の割合・保護者アンケート結果（4段階評価の平均値）【 野曽原 】	70%	81%	116%	A							
	「コミュニケーション能力」・「課題を発見し解決する力」・「乗り越える力」を育てる	自ら目標をもち，進んで体力の向上，健康の保持増進に取り組む意欲・態度を育てる	・外遊びの推奨 ・月・水・金曜日に元気っずタイム（業間運動）を設定し，課題克服運動プログラムを実施 ・水泳記録会，マラソン大会，縄跳び大会等，自己目標の設定 ・対外的な陸上記録会等に積極的に参加 ・県小学校体育研究大会開催に向けて，体力つくり活動を充実させる	・「運動遊び」に関するアンケートでの肯定的に自己評価する児童の割合【 中島 】	80%	97%	121%	A				・外遊びや体を動かすことを楽しむ児童が多く見られる。元気っずタイムを全学年参加しており，運動する意識が高まっている。	・元気っずタイムに参加している児童も多く，運動や遊びが好きな児童が多い。しかし元気っずタイムでは，全学年合同で実施しているため，低学年と高学年の力量の差がでることから，低学年目線の運動や，楽しい運動を取り入れる。		
				・新体力テストの結果において，前年度の重点種目が，全国平均値を上回る項目の割合【 中島 】	60%	46%	77%	C				・前年度の重点種目「握力」「長座体前屈」に関して，今年度にも課題が見られる。特に，低学年では，「握力」，全学年では，「長座体前屈」を全国平均を上回る児童が少なかった。	・「長座体前屈」を学校取り組み目標と設定する。元気っずタイムを活用し，柔軟関連の内容を取り入れていく。 ・各学年体育科授業のストレッチに長座体前屈を取り入れる。		
				・水泳記録会，マラソン大会，縄跳び大会において自己目標を達成した児童の割合【力石 】	80%	84%	105%	A				・1学期は水泳記録会の自己目標から，達成した児童の割合を見た。結果としては，どの学年でも目標を達成した児童が多く見られる。中には達成することができなかった児童が数名いた。	・自己目標を設定する時に，児童へ目標設定の目安を提示する。また，記録会や大会の中間の段階で，目標を振り返る時間を設け，自己目標を設定し直したり，再確認したりする時間を取り入れる。		
				・体力向上の工夫等をした体育科授業充実度（年間で3回，指導者の相互評価で見とる）【 野曽原 】	80%	75%	94%	B				・1学期は水泳学習で，低・中・高学年に分かれて学習を行った。児童が進んで学習に取り組むことができるような指導を行えるよう，相互に授業を行うことができている。 ・児童が意欲的に取り組めるようなめあてを設定したり，教材・教具を工夫したり泳力に応じた指導を実施したり，体力向上を意識して指導に当たることができている。	・児童の意欲が高まる指導を行うとともに，体力向上を意識した授業を検討していく。 ・指導者同士が授業を見合うことができるよう，合同体育を計画していく。異学年での体育を行うことで，児童の意欲が高まるよう工夫を行っていく。 ・ICT等を取り入れた授業づくりを行う。		
		〇健康的で規則正しい生活の実践	・朝食，生活リズムについて全体指導をする ・生活リズムアンケートによる基本的生活習慣の実態把握 ・アウトメディアデーの実施	・生活リズムアンケートで，肯定的に評価する児童の割合【 岸・柚木 】	80%	93%	116%	A				・朝食の喫食はどの学年もよく摂っていた。中にはパンと飲み物のみの児童や何か口に入れた程度の児童がいた。 ・起床時刻と就寝時刻を守れていない児童の割合が高い学年がある。習い事やおうちの都合で守れない場合がもあるが，自らすすんで自分の決めた時刻に就寝・起床できない児童もいる。（保護者のコメントより）	・朝食の質の向上のため，1学期末におにぎり簡単レシピ等を給食だよりを発行する。また，2学期の朝会で食育朝会を開き，指導を行う。 ・起床時刻・就寝時刻を次回のリズムチェックでは重点的に取り組む。そのために，保健体育委員やほけんだより等を活用して，改善に取り組む。また，習い事等の日の時間設定を別に決めさせる等の指導を引き続き行う。		
				・生活リズムアンケートのふり返りにおいて，アウトメディアに取り組めたと肯定的な評価をした児童の割合【 岸 】	80%	95%	119%	A				・どの学年も前向きに取り組んでいる。児童の振り返りも「自分から積極的にお手伝いをした」や「テレビを見なくても楽しかった」など肯定的な言葉がみられる。	・前向きに取り組んでいる児童が多い。引き続き取り組みを行っていく。2学期には，保健体育委員による朝会やほけんだより等で情報発信を行い，児童がより前向きにできるように取り組んでいく。		
信頼される学校		安全・安心で信頼される学校をめざす	・感染症対策等を含めた危機管理体制の充実 ・働き方改革による「子どもと向き合う時間」確保（2学期制の導入等） ・授業研究等における指導力の向上 ・コミュニティ・スクールの推進	・危機管理対策研修を学期に1回以上行う ・危機管理体制について，保護者アンケートでの，肯定的評価【教頭】	80%	90%	112%	A				・危機管理対策研修は，不祥事防止研修を中心に，年度当初に計画を立て，分担し各担当に当事者意識と責任を持たせて計画通り100%研修できた。 ・危機管理体制についての保護者アンケートの結果は79.5%であった。この部分に対しては，正門がなく，校舎に侵入しやすい環境が大き	・不祥事防止研修については，引き続き計画に沿って研修を進めるとともに，他市町等の不祥事事案も他山の石として職員に周知し，不祥事防止に努めていきたい。 ・毎年，正門等がなくて学校へ侵入しやすい環境等への保護者の不安感が寄せられる件については，継続して市教委やPTAへ要望していく。		
				・教職員アンケートでの，肯定的評価【教頭】	80%	89%	111%	A				・働き方改革による「子どもと向き合う時間」確保（2学期制の導入等）のアンケートは88.9%で教職員が肯定的評価をしており効果的であったと思われる。	・子どもと向き合える時間が増えるような取り組みを工夫して，教職員が取組みの効果を実感できるよう工夫していきたい。		
		〇危機管理の徹底と指導力の向上		・指導力の向上について，児童・保護者アンケートでの，肯定的評価【教頭】	80%	94%	118%	A				・指導力の向上についての保護者のアンケート「教職員は，子供が進んで学び合えるよう工夫して指導を行っている。」「子供は，授業が分かりやすいと言っている。」の肯定的評価は，それぞれ97.8%，90.9%であった。	・指導主事や大学教授を招聘しての研修を通して，体育科を中心に指導法を他の教科にも波及していくようにさらに研究を推進していきたい。		
				・学校運営協議員等による学校運営のアンケートでの肯定的評価【教頭】	80%	80%	100%	A				・学校運営協議会では本校の取組みの概要についてプレゼンテーションや学校だより等で情報発信を行い，わかりやすく説明に努めた。自己評価的には8割は理解していただいていると考える。	・今回の学校運営協議員等による学校運営についてのアンケートの結果をもとに，学校の取組みを更に理解していただくような取り組みを展開していく。		

（自己評価）　達成度＝達成値÷目標値　　A：100≦（目標達成）　B：80≦（ほぼ達成）＜100　C：60≦（もう少し）＜80　D：（できていない）＜60